

2022

Language Policy

札幌日本大学高等学校



IB の理念

国際バカロレアは、異文化の理解と尊重を通じて、よりより平和な世界の創造に貢献する、探究心・知識・思いやりのある若者を育成することを目的としています。この実現のため、国際バカロレアは学校、政府、国際機関と協力して、厳格な評価を伴う挑戦的な国際教育プログラムを開発しています。これらのプログラムは、世界中の生徒たちが、違いのある他者も正しいと理解し、積極的に思いやりのある生涯学習者になることを奨励しています。

札幌日本大学中等・高等学校の教育目標と理念

教育目標

全人的な人間形成を重視した高水準の質の高い教育を提供し、学生に生涯学習者としてのスキルを身につけさせる一流の教育機関として認知されること。

理念

札幌日大は「世界に貢献する人」の育成を目標に掲げています。急速なグローバル化にともない、将来の世代にとって

- ・ 世界と地域の両方を考えることのできる、バランスの取れた思考力
- ・ 全世界と人類のために行動しようとする思いやりの心
- ・ 困難に直面しても対処できる知識、技能、精神力

を身につけることは不可欠です。このような能力を備えた生徒を育成するため、私たちは探究心、国際理解、バランスの取れた心身の発達、分析的な思考を重視しています。生徒たちは言語の習得を通してこれらの技能を学び、伸ばしていきます。言語はすべての思考の中心であり、私たちは責任をもって彼らの言語能力を最大限に引き上げ、より複雑で批判的な思考を身につけさせます。この目的を果たすため、私たちは国際基準の教育プログラムを導入したいと考え、独自の教育プログラムにIBDPを加えることにしました。国際バカロレアの理念と目指す学習者像は、本校の教育方針と一致しています。

「世界に貢献する人」を育成するために、学校自身も世界に貢献する学校でなければなりません。私たちは生徒のために理想的な教育プログラムを追求するだけでなく、世界中の他の学校と協力して、お互いに情報を共有し、学びあいたいと考えています。これは、私たちが国内および世界の教育を牽引したいという目標の一部です。

言語哲学

札幌日大高校は、言語は私たちの文化的アイデンティティを維持するだけでなく、自分の考えやアイデア、感情を表現するための基本的なものであると考えています。また、言語によって、私たちは社会や世界に有意義な貢献をすることができます。文化は主に話し言葉や書き言葉を通して伝達され、深く結びついています。すべての世界の文化とは言わないまでも、ほとんどの文化には、その重要性を強調することわざがあります。例えば、ウェールズのことわざ "Cenedl heb iaith, cenedl heb gallon"（「言語のない国は心のない国である」）や、マレーのことわざ "Bahasa jiwa bangsa."（「言語は魂である」）などがあります。SNUのすべての学生、教職員の文化や母国語は尊重され、完全にサポートされています。

外国語を習得することで、生徒たちは異文化について学び、意見や考えを共有することができます。生徒たちは、自分の考えやアイデアが他の文化とは異なるかもしれないことを理解し、言語が文化の多様性において重要な役割を果たしていることを知ることができます。このことは、生徒の世界観を広げながら、理解と受容を深めることにつながります。

本校では、生徒が複数の言語を使いこなせるようになることを目標としています。生徒の話す能力と書く能力を効果的に開発することで、生徒は様々な文脈で言語を効率的に使用し、言語の価値と様々な分野での貢献を実感することができます。また、日本語を母国語としない生徒の言語も尊重し、サポートしています。

保護者の方々は、本校の生徒の教育に大きな貢献をしています。これには、保護者の下にいる子供たちが第一言語の能力を維持するための励ましや、第二言語を有意義に活用するためのサポートやモチベーションを与えることが含まれます。

札幌日大高校では、学習と自己成長における言語の重要性を認識しており、このことは、生徒たちが第一言語である日本語と第二言語である英語の両方の授業を文部科学省の設定よりも多く行っていることに反映されています。カリキュラム全般を通して、生徒は自分の考えを言葉にして他の人と共有することを奨励されています。毎日の朝の読書の時間には、言語を通して自分の考えや知識を深めることができます。

国際交流プログラム、留学プログラム、留学生、多国籍の講師陣を通じて、スタッフや学生だけでなく、より広い地域で、多言語性と多様性を促進する環境を提供することができます。

言語プロフィール

札幌日大高校は、15歳から18歳までの生徒が通う男女共学の高等学校です。生徒は主に札幌とその周辺地域から来ています。また、北海道内の他の地域や道外からの留学生もいます。寮は男女別になっており、自宅にいない学生のために用意されています。

生徒

札幌日大高校のIBDPコース生の大半は、ネイティブレベルの日本語を話します。その理由は、ほとんどの学生がIB前の教育を日本の中学校で受けているからです。また、ニュージーランド、シンガポール、タイ、ベトナムなどからの帰国子女や、東アジア、東南アジアからの外国人留学生など、少数の英語圏の学生もいます。これらの生徒たちは、日本語を母国語としているか、それに近いレベルの日本語能力を持っていますが、一部の生徒はアカデミックな日本語が苦手な場合もあります。

教職員

札幌日大高校の教職員は日本語を母国語としていますが、日本語を母国語とする人の多くは第二言語として英語を使用しています。これにより、意思決定や協働など、外国人教職員の十分なサポートや関与が可能となっています。IBDPの授業担当者は、さまざまなレベルの英語力を持っており、英語と日本語の両方で生徒とコミュニケーションをとっています。英語Bに加えて、美術、数学、音楽も英語で授業を実施します。外国人教諭は主に英語で生徒とやり取りを行っており、生徒たちはさまざまな世界の英語に触れることができます。札幌日大高校で採用されている外国人教諭は、英語、中国語、フィリピン語を母語または第二言語としています。

保護者

札幌日大高校の保護者の大半は日本語を母国語としていますが、コミュニケーションは、保護者の方が特定の言語でのコミュニケーションを希望されない限り、日本語で行われます。学校の関連情報を保護者に伝え、学校に関わっていただくには、効果的なコミュニケーションが不可欠です。文書等は紙面もしくはオンラインで配布されます。札幌日大高校には保護者や生徒が重要なお知らせや注意事項をすぐに確認できるオンラインプラットフォームを用意されています。学校の公式ウェブサイトでは、学校の方針やその他のガイダンスが、誰もが簡単にアクセスできるかたちで提示されています。

言語学習支援

言語育成

札幌日大高校では、学生が必要とする言語をサポートするために、語学教員によるサポートクラスや個別指導を行っています。日本語が不自由な留学生のため毎週日本語講座を行っているほか、英語が不自由な生徒のために補講を行っています。中国語を学びたい生徒向けに中国語同好会があり、中国からの留学生や中国語を話せる教員が学習をサポートしています。これらは授業外の時間に行われているため、IBDPの生徒たちも参加することができます。IBDPの第二言語が英語であるため、学生は教室の内外を問わず、あらゆる機会に英語を使うことが奨励されています。生徒は、プログラムが進むにつれて、授業や各評価で使用する英語の量を増やすように努力することが期待されています。

図書館と IT リソース

札幌日大高校に通うすべての学生は、自分の紙辞書または電子辞書を持っています。さらに、すべての学生にはオンラインリソースにアクセスするためのタブレットが提供されています。コンピュータールームと図書館では、中国語、英語、日本語の書籍、電子リソース、その他の情報源を日常的に利用することができます。これにより、母語と第二言語の両方の発達をサポートしています。日本語を母国語としない学生のための第一言語サポートリソースは本校の最優先事項であり、日本語を母国語としないすべての学生を現在も、これからもサポートしていきます。

家庭での言語発達

保護者は、本校の支援を受け、第二言語習得の機会の提供や支援に積極的に参加することを奨励されます。これには以下が含まれます。

- ・ 信頼できるテキストを読むよう促すこと
- ・ 国際交流やプログラムに参加すること
- ・ 第二言語で日記をつけること
- ・ 第二言語の映画を字幕付きで視聴すること
- ・ 第二言語で音楽やポッドキャストを聴くこと

アドミッションポリシーとアセスメントポリシー

札幌日大高校への入学は、筆記試験と面接によって決定されます。試験と面接は、英語のペーパーテストを除いて、日本語で行われます。したがって、志願者は日本語を母国語とする人または日本語学習者であり、小学校低学年レベルの英語力を持っている必要があります。札幌日大高校では言語の多様性を歓迎しており、日本語や英語を母国語としない人にも必要なサポートを提供しています。

生徒がIBDPの履修を始める直前の1年生11月には、英語でのエッセイライティングとインタビューで構成される校内英語力テストが実施されます。この段階で、生徒はCEFRのB1レベルに達していることが期待されます。

本校では日本語DPを実施しており、生徒は英語B、音楽、美術、数学のなかから二科目を英語で受講します（グループ4から二科目を履修する生徒はグループ6を選択しないため、自動的に英語Bと数学を英語で受講することになります）。それ以外の日本語A、歴史、物理、化学、生物は日本語で授業を受けます。

方針の見直し

本方針は2021年8月に策定され、毎年度末に検証と見直しをされるものである。運営委員会による改訂案を学校長が決裁し、改訂が行われる。

參考資料

- "Guidelines for developing a school language policy" (2008) International Baccalaureate Organization
- "Diploma Programme: From principles into practice" (2015) International Baccalaureate Organization

IB Mission Statement

The International Baccalaureate aims to develop inquiring, knowledgeable, and caring young people who help to create a better and more peaceful world through intercultural understanding and respect.

To this end the organization works with schools, governments, and international organizations to develop challenging programs of international education with rigorous assessment.

These programs encourage students across the world to become active, compassionate, and lifelong learners who understand that other people, with their differences, can also be right.

SNU Vision and Mission Statements

SNU Vision Statement

To be recognized as a leading educational institution that provides high standards of quality education that emphasizes holistic human development and equips our students with the skills to be lifelong learners.

SNU Mission Statement

Sapporo Nihon University Junior and Senior High School (SNU) is committed to nurturing “contributors to the world.” With rapid globalization, it is indispensable for future generations to obtain

- a well-balanced sense of thinking globally and thinking locally
- a compassion that motivates them to act for the whole world and humankind
- the skills, knowledge, and mental strength to deal with difficulties they may face

To develop students equipped with these traits, we place an emphasis on learning through inquiry, international understanding, balanced educational development, and an analytical mindset. Students learn and develop those skills through their acquisition of language. Language is at the core of all thoughts and ideas, and it is our responsibility to develop students’ language skills to the fullest leading to a more complex and critical way of thinking. Therefore, we were determined to implement an internationally standardized education program for our students by adding the IBDP to our unique pedagogical programs. The

International Baccalaureate's philosophy and Learner Profile attributes are aligned to our own educational policies.

To encourage our students to be "contributors to the world," we as a school must also make contributions to the world. Not only do we seek an ideal education program for our students, we also want to collaborate with other schools around the world to share with and to learn from each other. This is part of our goal to be educational leaders within our country and globally.

Language Philosophy

SNU believes that language not only preserves our cultural identity but is fundamental to our ability to express our thoughts, ideas, and feelings. It allows us to make meaningful contributions to society and the world we live in. Cultures are primarily communicated through spoken and written language and are deeply interwoven. Most, if not all world cultures have proverbs emphasizing their importance. Examples of this are the Welsh proverb "Cenedl heb iaith, cenedl heb gallon" ("A nation without a language is a nation without a heart") and the Malay proverb "Bahasa jiwa bangsa." ("Language is the soul of a race"). The culture and first language of all SNU students, faculty, and staff is valued and fully supported.

Through acquiring a foreign language, our students can learn about other cultures and share ideas and opinions. Our students can understand that their thoughts and ideas may be different from other cultures and that language plays a key role in cultural diversity. This in turn leads to greater understanding and acceptance while widening our students' worldviews.

We aim to support our students to become proficient speakers of more than one language by empowering them through learning, self-reflection, and using language competently and with confidence. Through effectively developing our students' spoken and written skills our students can efficiently use language in different contexts and realize the value of language and its contributions across various disciplines. The language of students whose first language is not Japanese is valued and supported as well.

Parents and caregivers make a significant contribution to the education of our students. This includes providing encouragement to children under their care in maintaining their first language proficiency and giving them support and motivation to utilize their second language meaningfully.

SNU appreciates the significance of language in learning and personal growth, and this is reflected in the higher-than-average number of language classes in the students' first year

both Japanese, their first language, and English, their second language. Throughout our curriculum students are encouraged to verbalize their thoughts and share them with others. Our daily morning reading time allows students to deepen their thoughts and knowledge through language.

Through our international exchange programs, study abroad programs, international students, and multi-national teaching staff we are able to expose not only our staff and students but also our wider community to an environment which promotes multilingualism and diversity.

Language Profile

SNU is a coeducational senior high school with students in the fifteen-to-eighteen-year age group. Students mainly come from Sapporo and its surrounding areas. SNU also has students from other areas of Hokkaido, and outside of Hokkaido, including international students. SNU has separate male and female dormitories for students not living at home.

Students

The majority of SNU IB diploma students speak native-level Japanese, with most students spending their pre-IB education attending Japanese schools including our junior high school. A small number of English speakers are comprised of Japanese returnees from countries such as New Zealand, Singapore, Thailand, and Vietnam, while non-Japanese students include visitors from East and South-East Asia. These students have native or near-native level Japanese proficiency although some students may have weaknesses in their academic Japanese.

Faculty and Staff

While the predominant language of SNU's faculty and staff is Japanese, many native Japanese speakers use English as a second language. This allows sufficient support and involvement for foreign staff including decision making and collaboration. SNU teachers who teach in the IB diploma program have varying levels of English proficiency and communicate with students in both English and Japanese. In addition to English B, art, math, and music are taught in English. Foreign teaching staff interact with students primarily in English exposing students to a variety of English from around the world. Foreign teachers employed by SNU include those whose native language or second language is English, Chinese, and Filipino.

Parents and Caregivers

The majority of SNU parents and caregivers are Japanese speakers. Communication is conducted in Japanese unless the parent or caregiver requests any communication to be in their preferred language. Effective communication is vital in disseminating relevant school information to parents and caregivers as this plays an important role in school involvement. In relation to this, materials are provided through online and paper copy distribution. SNU has an online platform for parents, caregivers, and students to use for immediate and important announcements and/or reminders. The official school website is also utilized in displaying and explaining school policies and other guidance which everyone can easily access.

Language Learning Support

Language Development

SNU aids its students' language needs with support classes and individual guidance provided by their language teachers. Every week we have Japanese language classes for international students with limited Japanese ability, and supplementary classes for students with limited English ability. For students who want to learn Chinese, there is a Chinese language club, where Chinese students and a Chinese-speaking teacher support their learning. These activities are held outside of class and are open to IBDP students. As the second language of the IB diploma program is English, students are encouraged to use English at every given opportunity, both inside and outside the classroom. The expectation is that students will make significant efforts to increase the amount of English used in class and each assessment as they progress through their program.

Library and IT Resources

All students attending SNU have their own paper or electronic dictionary. In addition, all students are provided a tablet for access to online resources. The computer room and library provide students with regular access to a growing collection of books, electronic resources, and various other sources of information in Chinese, English, and Japanese. This supports both mother tongue and additional language development. First-language support resources for non-native Japanese speakers are a priority and all students whose first language is not Japanese are and will continue to be supported.

Language Development at Home

Parents and caregivers with the assistance of SNU are encouraged to be actively involved in supporting and providing opportunities for second language acquisition. This may include:

- encouraging reading of authentic texts
- participation in international exchanges and programs
- maintaining a diary in their second language
- watching movies in their second language with the assistance of subtitles
- listening to music and podcasts in their second language.

Admissions and Assessment Policy

Admission to SNU is determined through paper examinations and an interview. The examinations and the interview are conducted in Japanese, with the exception of the English paper test. Therefore, applicants must be a native speaker or a learner of Japanese language, with an early-high school level of English proficiency. We do welcome diversity in languages in SNU and offer necessary support for non-native Japanese / English speakers.

Before senior high school students move on to the IB Diploma Program in November of the first year they will be required to take an internal English proficiency test, which consists of essay writing and an interview in English. At this stage of their education students are expected to be at B1 level of CEFR.

SNU offers Japanese DP, and students will choose two courses given in English from English B, Music, Visual arts and Mathematics (students who take two courses from Group 4 do not choose Group 6, so they automatically take English B and Mathematics in English). The other subjects - Japanese A, History, Physics, Chemistry, and Biology - are given in Japanese.

Policy Review

This policy was established in August 2021 and will be reviewed and revised at the end of each school year. The school principal will approve the proposed revisions by the IB Programme Guidance Committee, and revisions will be made.

Reference Data

- "Guidelines for developing a school language policy" (2008) International Baccalaureate Organization

- "Diploma Programme: From principles into practice" (2015) International Baccalaureate Organization